

代理親魚技法による新規養殖魚開発：「カイジ」の創出

森田哲朗^{1,2}・原田将登¹・吉崎悟朗^{1,2}（¹東京海洋大学，²株式会社さかなドリーム）



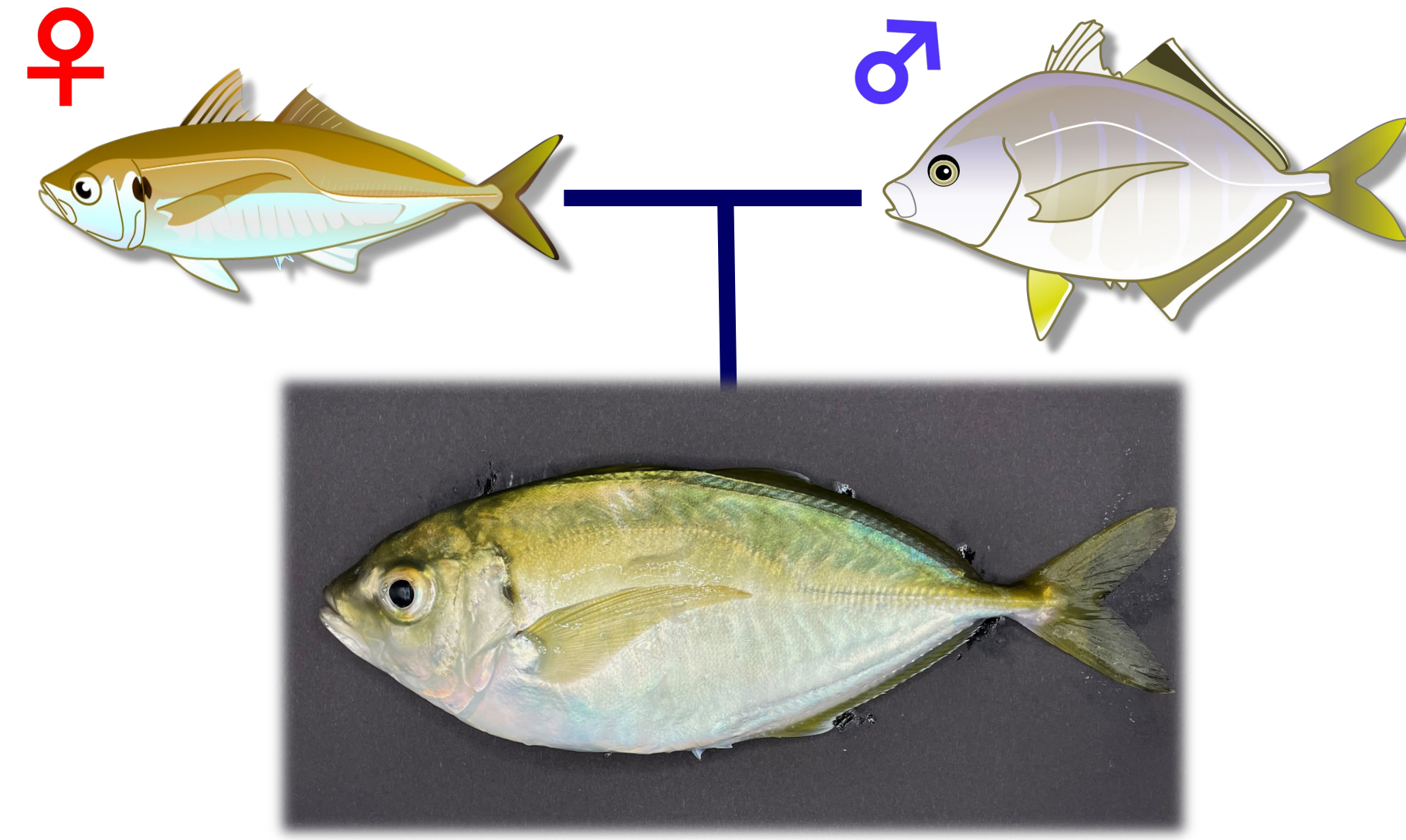
背景・目的

カイワリとは



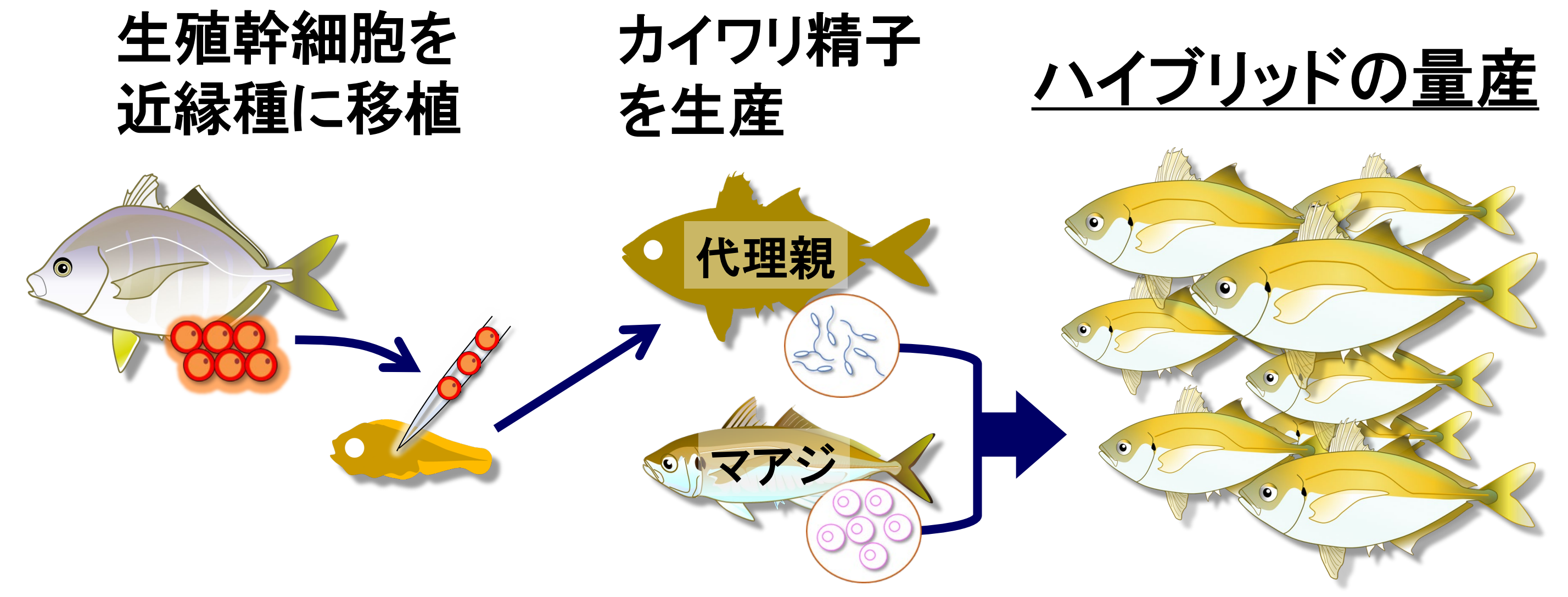
- ◎ 非常に美味
- △ 漁獲が不安定
親魚や種苗が確保できない
⇒ 養殖は極めて困難

① マアジ×カイワリ交雑に挑戦



生残は？ 成長は？ 成熟する？

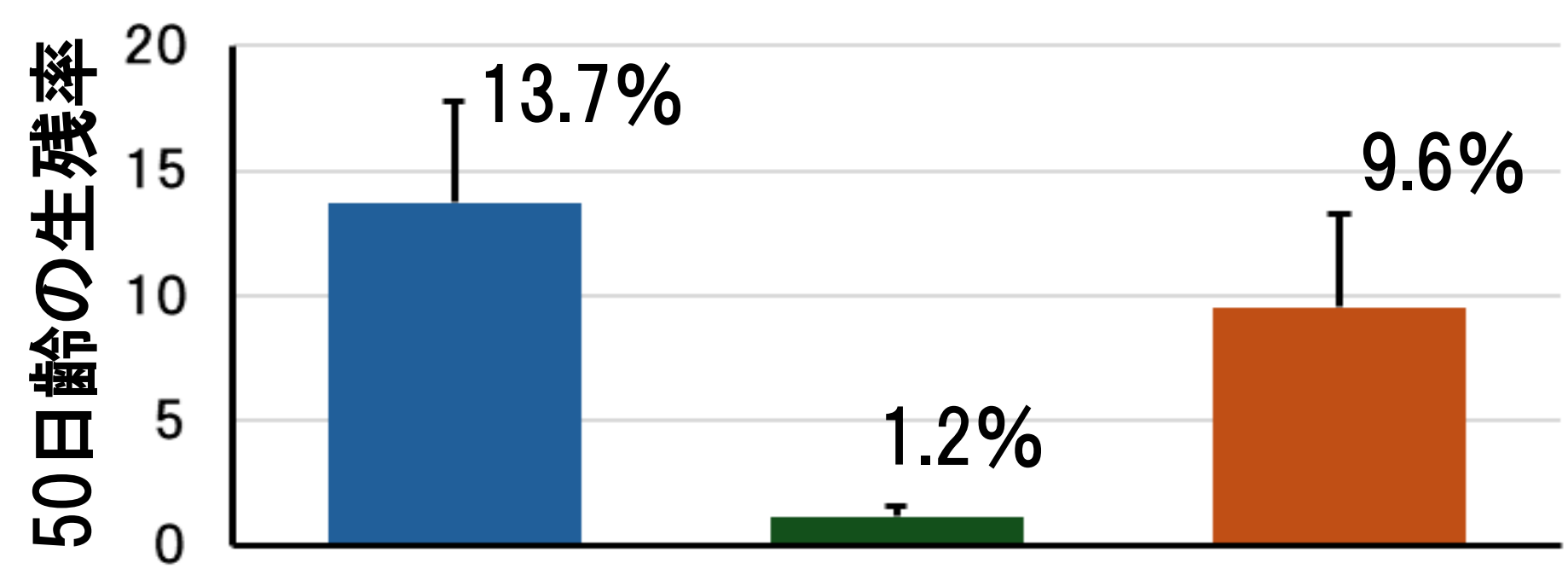
② 代理親魚技法でハイブリッド量産に挑戦



機能的なカイワリ精子を安定供給できるのか？

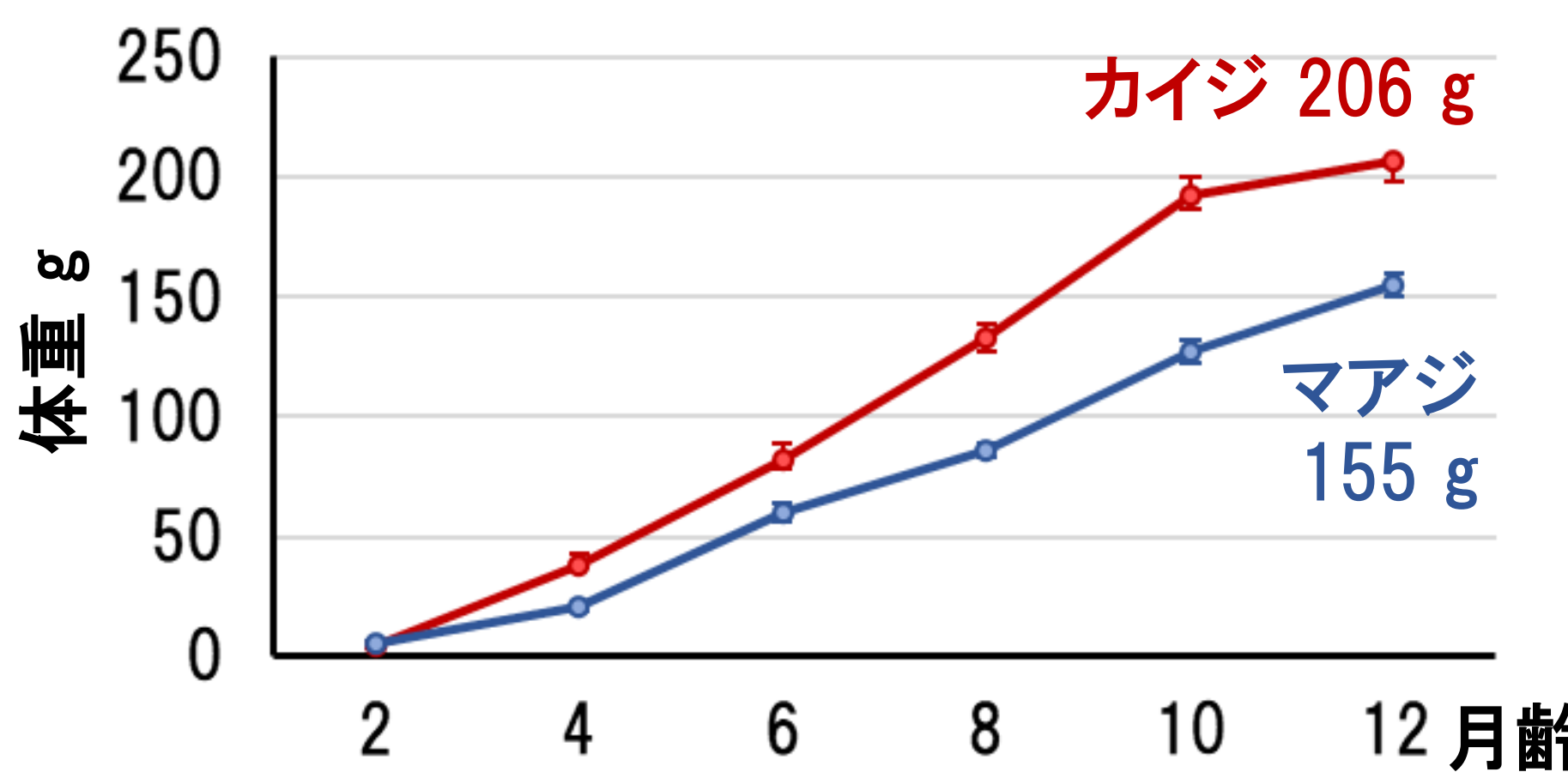
① マアジ×カイワリ交雑種「カイジ」の作出

種苗の生残率



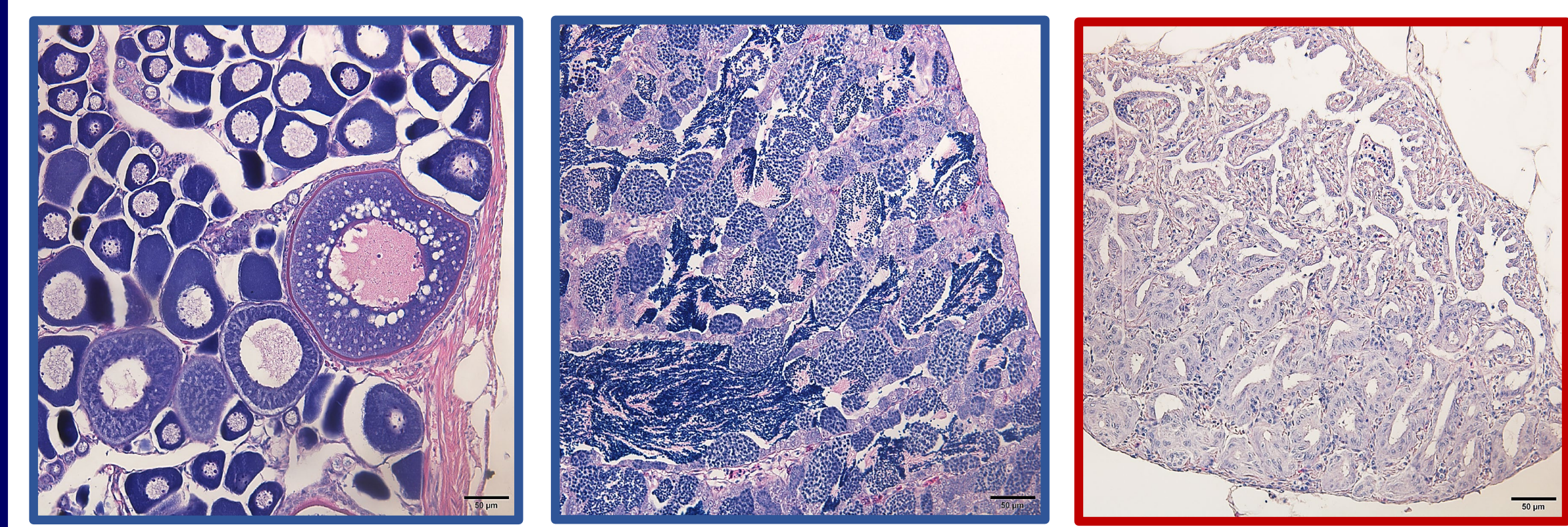
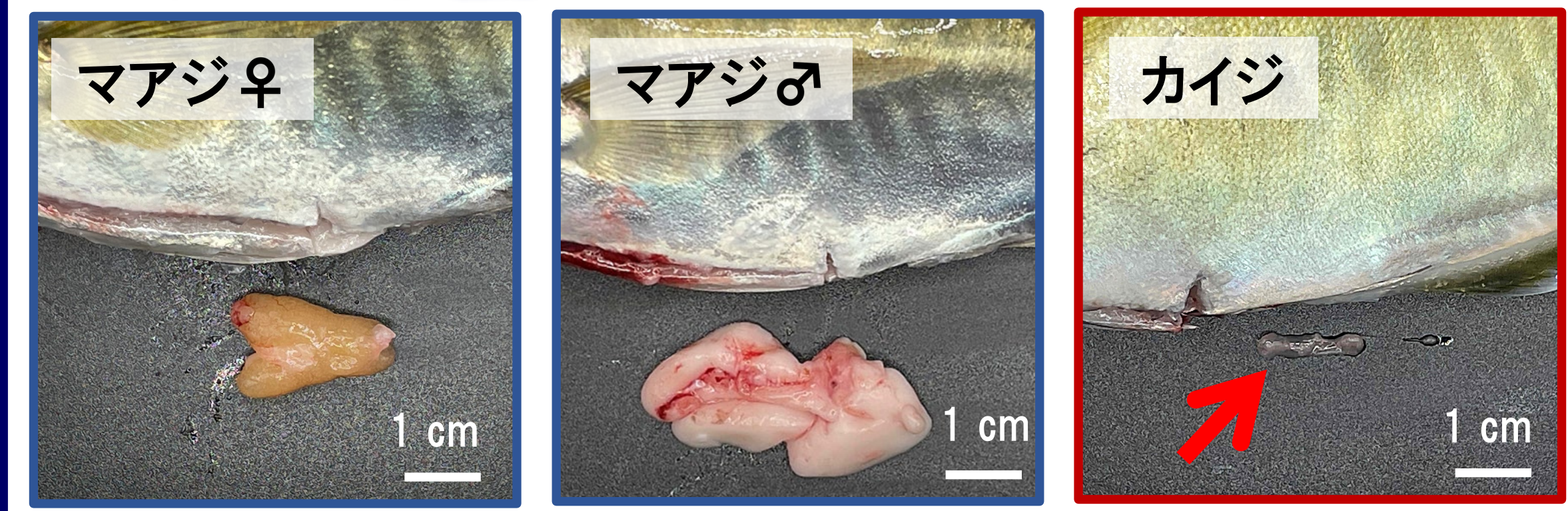
ハイブリッド化で生残性向上

カイジの成長



マアジ比1.3倍の成長スピード

カイジの成熟

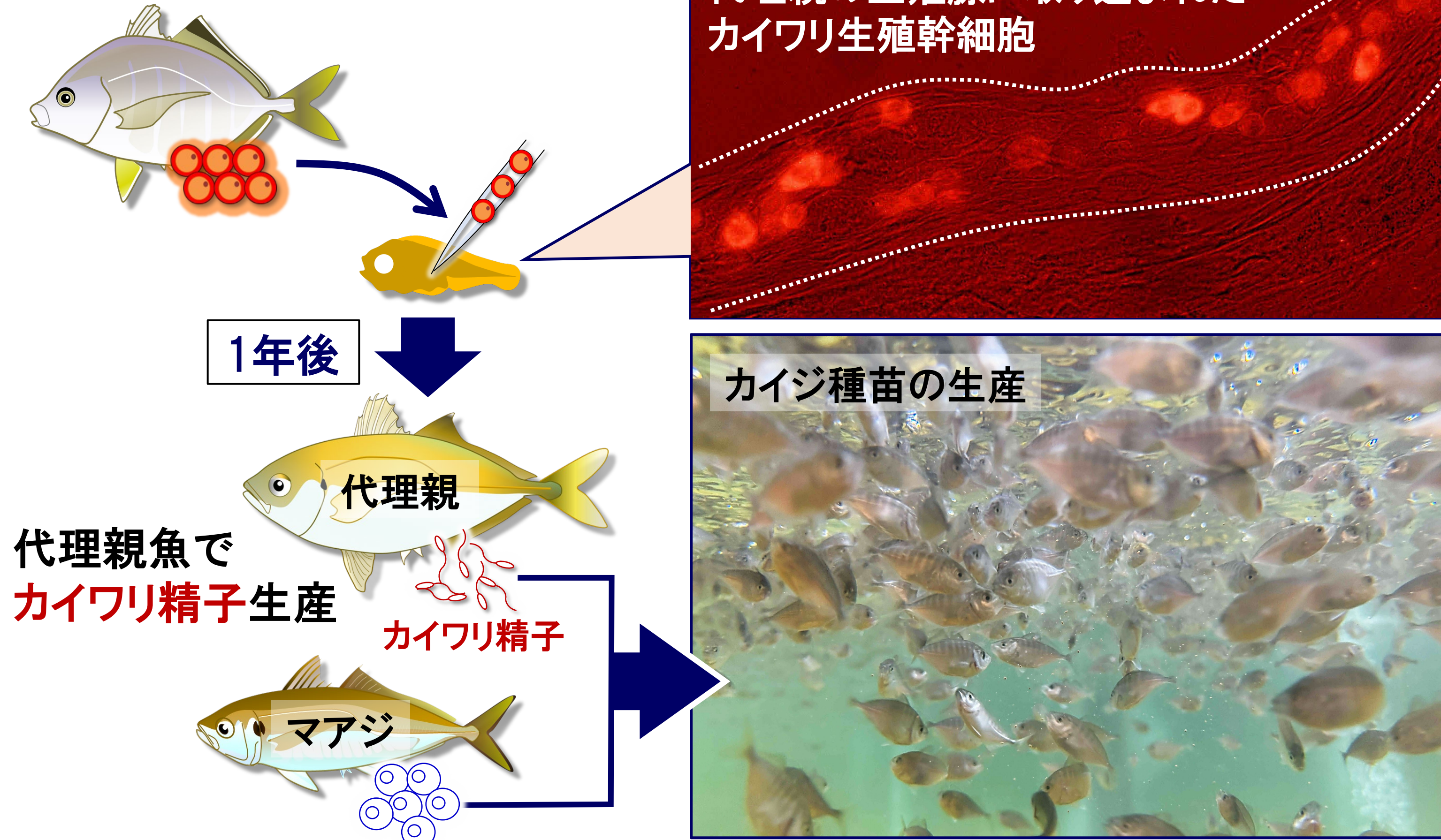


カイジは不妊：安定品質・流出回避

② 代理親魚技法によるカイジ量産系の確立

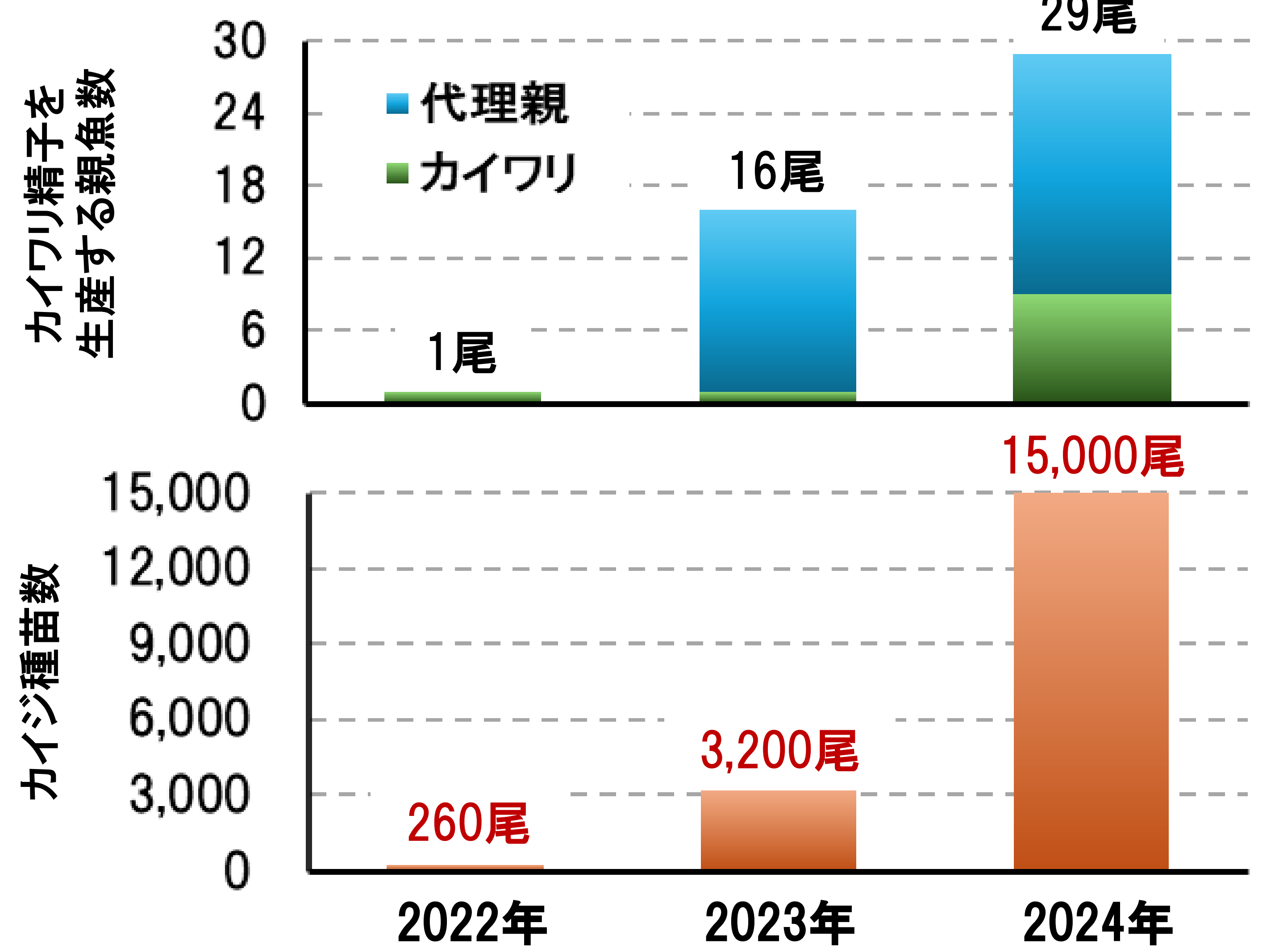
代理親魚によるカイワリ精子の生産

生殖幹細胞を代理親魚に移植



移植から1年で機能的なカイワリ精子の生産に成功

代理親魚を用いたカイジ種苗の量産



代理親魚を軸足としたカイジ量産体制を構築

東京海洋大学発ベンチャー「株式会社さかなドリーム」を起業し「社会実装」へ



顧問 吉崎悟朗
CTO 森田哲朗
CEO 細谷俊一郎
CMO 石崎勇歩



Special thanks



東京海洋大学
客員教授 さかなクン

本研究は生研支援センター「スタートアップ総合支援プログラム(SBIR支援)JPJ010717」の支援を受けて行いました。